

MPC *Version 2.0*
MUSIC PRODUCTION CENTER
10000

AKAI
professional



クイック・マニュアル

目 次

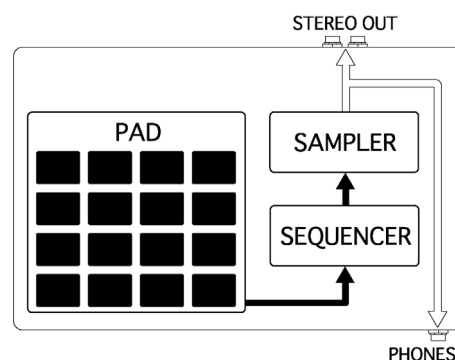
基本的な操作	1
MPC1000の基礎知識	2
デモ・ソングを聴く	2
プリセットプログラムを演奏する	2
パッドを叩いてシーケンスに録音する	3
演奏データの中から特定のパッドの演奏だけを消去する	3
複数のシーケンスを連続して再生する	4
再生するシーケンスをリアルタイムに選択する	4
シーケンスを設定した順序で再生する	4
音を録音する	5
録音の準備	5
録音の実行	5
録音した音をパッドに割り当てる	6
フレーズ・サンプルをシーケンス機能でループ再生させる	7
サンプルのスタート、エンドポイントを調整する	7
シーケンスに録音する	8
サンプルとシーケンスの小節数を合わせる	8
サンプルとシーケンスのテンポを合わせる	8
データの保存について	9
オートロード機能をOFFに設定する	9
その他の便利な機能	10

[WINDOW]キーを押すと、選択しているフィールドに関係のある、もっと詳細な設定を行うことができるウィンドウが表示されます。すべてのフィールドで[WINDOW]キーが使えるわけではありませんが、[WINDOW]キーを使うことができるフィールドを選択しているときは[WINDOW]キーのLEDが点灯します。

MPC1000の基礎知識

MPC1000は音を録音して再生する「サンプラー・セクション」、演奏情報を記録する「シーケンサー・セクション」、演奏を行なう「パッド」によって構成されています。

パッドの演奏をシーケンサーに記録し、記録したシーケンスでサンプラーの音を再生します。パッドからシーケンサーへ、シーケンサーからサンプラーへは演奏情報 (MIDIデータ) が送信され、送信された演奏情報を元にサンプラーが実際の音を出力します。



デモ・ソングを聞く

MPC1000の内蔵メモリにはデモ・ソングやプリセット・プログラムが保存されており、電源を入れるとオート・ロード機能によって自動的にデータが読み込まれます。ここではデモ・ソングを再生してみましょう。

- 1 MPC1000のPHONES端子にヘッドフォンを接続して下さい。

機器の接続については使用説明書の5ページ「接続」をお読み下さい。

- 2 MPC1000の電源を入れて下さい。

電源を入れると、起動画面が表示された後に内蔵データの読み込みが自動的に始まります。読み込みが終わるとMAINページが表示されます。



- 3 Sqフィールドで"01-DJ-Hip_Hop"が選択されていることを確認して、[PLAY START] キーを押して下さい。

[PLAY START]キーを押すとデモ・ソングの再生が始まります。再生を中止したい場合には [STOP] キーを押して下さい。[PLAY]キーを押すと停止した曲の途中から再生が再開します。

"01-DJ-Hip_Hop"の再生が終わったら、SqフィールドでDATAホイールを回して別の曲を再生してみてください。

プリセット・プログラムを演奏する

デモ・ソングの再生が終わったら、次はプリセット・プログラムをパッドで演奏してみましょう。パッドを叩くと、MAINページのPgmフィールドで選ばれているプログラムを演奏することができます。

- 1 Sqフィールドで (unused) のシーケンスを選択して下さい。

(unused)は、そのシーケンスがまだ使用されていないことを表しています。

- 2 Pgmフィールドに移動して、演奏してみたいプログラムを選択して下さい。

Pgmフィールドは演奏するプログラムを選択するフィールドです。PgmフィールドでDATAホイールを回すと、メモリ内にあるプログラムを選択することができます。

- 3 パッドを叩くとプリセット・プログラムを演奏することができます。

パッド・バンクA～Dを切り替えることで合計64個のパッドを演奏することができますが、全てのパッドにサンプルが割り当てられている訳ではありません。

パッドを叩いてシーケンスに録音する

ここでは内蔵のプリセット・プログラムを使って、パッドの演奏をシーケンスに録音します。

- 1 [MAIN]キーを押してMAINページを表示させて下さい。
- 2 Sqフィールドを選択して、演奏を録音するシーケンスを選択して下さい。
演奏を録音するシーケンスはどれでも構いませんが、ここではシーケンス名が (unused) になっているシーケンスを選択して下さい。(unused) はそのシーケンスが使用されていないことを表しています。
- 3 Trフィールドを選択して、演奏データを記録するトラックを選択して下さい。
演奏データはシーケンス内のトラックに記録されます。演奏を記録するトラックはどれでも構いませんが、ここでは Tr : 01を選択します。
- 4 Pgmフィールドを選択して、演奏したいプログラムを選択します。
- 5 [REC] キーを押しながら [PLAY START] キーを押して下さい。
4つのカウントの後、録音が始まります。
- 6 クリック音に合わせてパッドを演奏して下さい。
シーケンスの長さは初期設定値として2小節に設定されています。2小節分の録音が終わると、今録音した演奏を再生します。このときさらにパッドを叩いて演奏すると、最初に録音した演奏に新しい演奏を重ねて録音していくことができます。このような状態をオーバーダブといいます。
- 7 オーバーダブを終了したい場合は [STOP] キーを押して下さい。
- 8 [PLAY] キーを押すと、今録音した演奏を再生することができます。
- 9 録音をやり直したい場合は [REC] キーを押しながら [PLAY START] キーを押して下さい。
前に録音した演奏データは破棄されて、新たに演奏を記録することができます。
- 10 以前の録音データに重ねて録音したい場合は、[OVER DUB] キーを押しながら [PLAY START] キーを押して下さい。
以前に録音した演奏データが再生され、パッドを叩くことで新しい演奏を追加することができます。

■ 演奏データの中から特定のパッドの演奏だけを消去する

- 11 [OVER DUB] キーを押しながら [PLAY START] キーを押してオーバーダブを開始して下さい。
- 12 [ERASE] キーを押しながら消去したいパッドを押し続けて下さい。
押しているパッドのデータのみ消去されます。タイミング良くパッドを押すことで、フレーズの中の特定のタイミングの演奏データのみを消去することができます。

Sqフィールドで別なシーケンスを選択すれば、今の録音とは別に新しい演奏を録音できます。このようにして作成したフレーズをつなげて再生することで、一つの完成した曲を作り上げていくことになります。

ヒント: シーケンスの長さはBarフィールドで、拍子はTsigフィールドで変更することができます。
詳しくは使用説明書の12ページ「第3章 シーケンサー機能」をお読み下さい。

複数のシーケンスを連続して再生する

複数のシーケンスを連続して再生するには、再生するシーケンスをリアルタイムに選択していく方法と、SONGモードでシーケンスを再生する順番を設定しておく方法の2通りの方法を選択することができます。

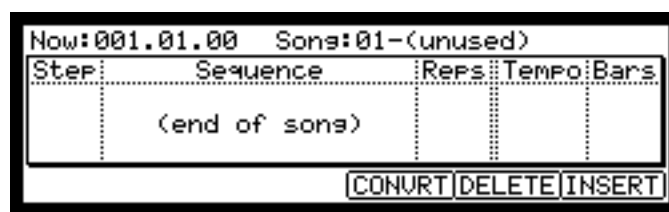
■ 再生するシーケンスをリアルタイムに選択する

- 1 MAINページのSqフィールドで最初に再生したいシーケンスを選択して下さい。
- 2 [PLAY START]キーを押してシーケンスの再生を始めて下さい。
- 3 シーケンス再生中にSqフィールドを選択して、次に再生したいシーケンスを選択して下さい。
現在選択されているシーケンスを最後まで再生すると、Nextフィールドで選択したシーケンスが続けて再生されます。この操作を繰り返し行うことで、次々とシーケンスを再生していくことができます。

■ シーケンスを設定した順序で再生する

シーケンスを設定した順番で連続して再生するにはSONGモードを使用します。

- 1 [MODE]キーを押してから、[PAD 16] (SONG) を押して下さい。
シーケンスの再生順序などを設定するSONGページが表示されます。



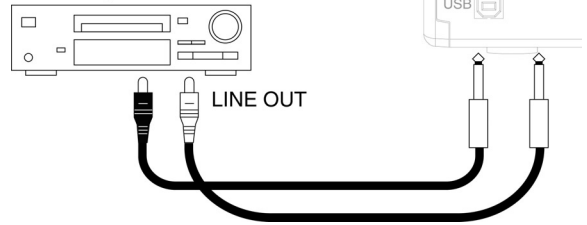
- 2 Songフィールドで名前が (unused) となっているソングを選択して下さい。
- 3 カーソルを (end of song) に移動して、DATAホイールで最初に再生したいシーケンスを選択して下さい。
- 4 下カーソルキーを押して (end of song) フィールドを選択して、次に再生したいシーケンスを選択して下さい。
手順3と4の操作を繰り返して、再生したいシーケンスを順番に並べていきます。
- 5 [PLAY START] キーを押して下さい。
設定した順番にシーケンスが再生されます。

ヒント: SONGモードの詳細については使用説明書の37ページ「第6章 ソング・モード」をお読み下さい。

音を録音する

ここでは内蔵プリセットを使うのではなく、自分で録音した音をパッドに割り当てて演奏する方法を説明します。リア・パネルのRECORD INに接続したCDプレイヤーから、アナログ信号を録音する場合を例に説明します。

CD Player



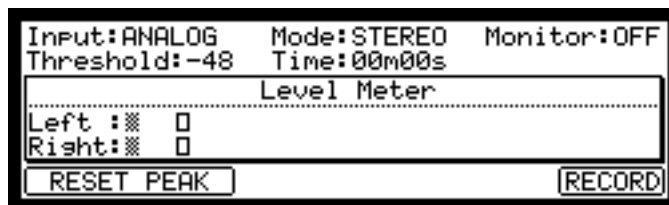
■ 録音の準備

- 1 CDプレイヤーのLINE OUT端子と、MPC1000のRECORD IN端子を接続して下さい。

MPC1000 のRECORD IN 端子は標準フォーンジャックですが、通常CD プレイヤーのLINE OUT 端子はピッチャックです。CD プレイヤーを接続するには、市販の変換コードか変換プラグをご使用下さい。

ターンテーブルのPHONO出力からMPC1000のRECORD INへは直接接続できません。
必ずDJミキサー等を経由してターンテーブルを接続してください。

- 2 [MODE] キーを押してから、[PAD 5] (RECORD)を押して下さい。
音を録音するRECORDページが表示されます。



- 3 InputフィールドでANALOGを選択して下さい。
- 4 Timeフィールドを選択して、録音する時間を設定して下さい。
録音を開始すると、このフィールドで設定した時間で自動的に録音が終了します。録音した音は、後から長さを調整することもできますので、ここでは実際に録音したい時間より、少し長めに設定して下さい。
- 5 CDを再生して、画面のレベルメーターを見ながら[REC GAIN]ノブを使って録音レベルを調整して下さい。
メーターが右に振り切ると音がひずんでしましますが、音が小さすぎるとノイズの多いサンプルになってしまいます。メーターが振り切らない範囲でできるだけ大きいレベルに設定して下さい。

■ 録音の実行

- 6 録音したい音をすぐ再生できるようにCDプレイヤーを準備して下さい。
- 7 RECORDページで[F6] (RECORD) キーを押して下さい。
MPC1000が録音待機状態になり、画面の一番下の表示が次のように変わります。

Waiting for input signal.. [CANCEL] [START]

この状態はMPC1000が入力信号を待っている状態です。CDプレイヤーを再生して音が再生されると、自動的に録音が始まります。

[F5] (CANCEL)キーを押すと、録音待機状態をキャンセルして元の状態に戻ります。

[F6] (START)キーを押すと、CDプレイヤーを再生する前でも録音を開始できます。

ヒント: [F6] (RECORD) キーを押した時に音が再生されている場合、すぐに録音が始まります。

- 8 CDプレイヤーを再生して下さい。

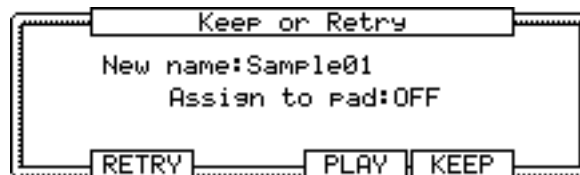
再生が始まると自動的に録音が始まり、画面の一番下の表示が次のように変わります。



ヒント：録音レベルが小さすぎると、CDプレイヤーを再生しても録音が始まらない場合があります。手順5に戻って、[REC GAIN]ノブを使ってレベルの設定をやり直して下さい。

- 9 [F6] (STOP)キーを押して録音を終了して下さい。

[F6] (STOP)キーを押さなかった場合、Timeフィールドで設定した時間が過ぎると自動的に録音が終了します。録音が終了するとKeep or Retryウィンドウが表示されます。



- 10 [F4] (PLAY)キーを押して録音したサンプルを確認して下さい。

[F4] (PLAY)キーを押すと、キーを押している間、録音したサンプルを再生することができます。録音したサンプルが気に入らない場合は、[F2] (RETRY)キーを押してサンプルを破棄することもできます。

■ 録音した音をパッドに割り当てる

- 11 Assign to padフィールドを選択して、[PAD 1] を叩いてください。

PAD 1が選択されて、Assign to padフィールドにPAD 1と表示されます。

- 12 [F5] (KEEP)キーを押して下さい。

Keep or Retryウィンドウが閉じてRECORDページに戻ります。

これで録音したサンプルをパッドで鳴らせるようになりました。手順11で選択したパッドを叩くと、録音した音が再生されることを確認して下さい。

ヒント：サンプルはMAINページのPgmフィールドで選択しているプログラムのパッドに割り当てられます。もし、新規にプログラムを作成してサンプルを割り当てたい場合は、あらかじめPROGRAMモードで新しいプログラムを作成して、MAINページのPgmフィールドで選択しておく必要があります。

新規プログラムの作成方法については使用説明書の66ページ「プログラムの作成」をお読み下さい。

ヒント：録音したサンプルのスタート・エンドポイントを調整して、サンプルの必要な部分だけを再生することもできます。詳しくは使用説明書の64ページ「ループの設定」をお読み下さい。

ヒント：PROGRAMモードでは割り当てたサンプルを変更したり、サンプルの再生方法を設定することができます。より高度な機能を使いたい場合には使用説明書の66ページ「第12章 プログラム」をご参照下さい。

フレーズ・サンプルをシーケンス機能でループ再生させる

フレーズ・サンプルを使ってシーケンスを作成する方法について説明します。シーケンスで機能でフレーズ・サンプルを扱うためには、まずサンプルのスタート、エンドポイントを調整して、次に録音したフレーズのテンポにシーケンスのテンポを合わせます。

5 ページの「音を録音する」の手順でフレーズ・サンプルを録音して下さい。リズムに合わせたループ再生を行うために、録音するフレーズは、1小節や2小節といった、小節単位の長さで録音して下さい。

ヒント: フレーズを録音する場合は、実際に使いたいフレーズの前後の部分も含まれるように、少し長めに録音しておく、スタート、エンドポイントの調整がやりやすくなります。

■ サンプルのスタート、エンドポイントを調整する

リズムに合わせたループ再生を行うためには、スタート、エンドポイントを調整して、サンプルの中の使いたい部分だけを再生するようにします。スタート、エンドポイントの調整はTRIMモードで行ないます。

- 1 [MODE] キーを押してから、[PAD 6] (TRIM を押して下さい。)

サンプルを編集するTRIMモードが表示されます。



TRIMページのSt, Endフィールドは、それぞれスタートポイントとエンドポイントを設定するためのフィールドです。スタート、エンドポイント間の波形が白黒反転表示され、反転した部分だけが実際に再生されます。

- 2 画面左上のSampleフィールドを選択して、編集するサンプルを選択して下さい。

- 3 Stフィールドを選択して、スタート・ポイントを調整して下さい。

DATAホイールを回すとスタート・ポイントを変更することができます。パッドを叩いた時に、ちょうどフレーズの一拍目の音が鳴るように、[PAD 1] ~ [PAD 12] を叩いて音を確認しながら調整します。

スタートポイントの値を小さくしすぎると、パッドを叩いてから1拍目の音が鳴るまでに時間が空いてしまう場合があります。スタートポイントの値を大きくしすぎると、1拍目の音が欠けてしまう場合があります。

- 4 Endフィールドを選択して、エンド・ポイントを調整して下さい。

DATAホイールを回すとエンド・ポイントを変更することができます。サンプルの再生が使いたいフレーズの最後でちょうど終わるように、[PAD 1] ~ [PAD 12] を叩いて音を確認しながら調整します。

エンドポイントの値を小さくしすぎると、フレーズの途中で再生が終わってしまいます。エンドポイントの値を大きくしすぎると、ループ再生の時に余計な音や無音部分が入ってしまいます。

ヒント: TRIMページでパッド13を押し続けると、スタートポイントからエンドポイントの間を繰り返して再生(ループ再生)します。この機能を使ってスタートポイントとエンドポイントの調整がうまくできているか確認してみてください。スタートポイントとエンドポイントの設定がうまくいっていない場合は、フレーズのつなぎ目が不自然なリズムで再生されます。

■ シーケンスに録音する

シーケンス機能を使って、実際にフレーズをループさせます。

- 1 [MAIN] キーを押してMAINページを表示して下さい。
- 2 Sqフィールドで(unused)のシーケンスを選択して下さい。
- 3 Pgmフィールドで、録音したサンプルを割り当てたプログラムを選択して下さい。

シーケンスの録音は [REC] キーを押しながら [PLAY START] キーを押して、リアルタイムに録音する方法もありますが、ここではSTEP EDITモードのステップ入力機能を使って、シーケンスの最初にフレーズを再生するためのイベントを入力する方法を説明します。

- 4 [MODE] キーを押して、[PAD 4] (STEP EDIT)を押して下さい。

STEP EDITページが表示されます。



STEP EDITページではパッドの演奏情報がリスト表示されます。

- 5 DATAホイールを回して 001.01.00 を選択して下さい。
- 6 [OVER DUB] キーを押して下さい。
[OVER DUB] キーのLEDが点灯してステップ入力状態になります。

- 7 フレーズ・サンプルの割り当てられているパッドを叩いて下さい。

001.01.00に、叩いたパッドのイベントが入力されます。

叩くパッドを間違えた場合は、[F4] (DELETE)キーを押して下さい。入力したイベントが削除されます。

- 8 [STOP] キーを押して下さい。
ステップ入力の状態が解除になります。

■ サンプルとシーケンスの小節数を合わせる

新規に作成したシーケンスは初期設定で2小節に設定されています。録音したフレーズも2小節であればそのまま使用することができますが、録音したフレーズの小節数がシーケンスの小節数と違う場合には、シーケンスの小節数を変更してフレーズに合わせます。

- 9 [MAIN]キーを押してMAINページを表示して下さい。
- 10 Barsフィールドを選択して[WINDOW]キーを押して下さい。

Change Barsウィンドウが表示されます。New barsフィールドで小節数を設定して、[F5](DO IT)キーを押して下さい。ウィンドウが閉じて、シーケンスの長さが変更されます。

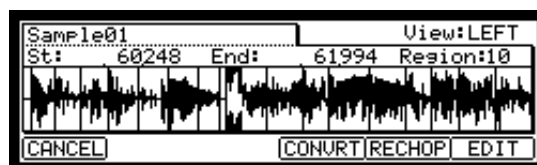
■ サンプルとシーケンスのテンポを合わせる

最後にサンプルとシーケンスのテンポを合わせます。

- 11 [PLAY START] キーを押して、シーケンスを再生して下さい。
- 12 ↓ (テンポ) フィールドでシーケンスのテンポを調整して下さい。

フレーズの最後の部分が次のフレーズの最初の部分と重なって聞こえる場合は、テンポを遅く(小さい値に) フレーズとフレーズの間に無音の部分がある場合は、テンポを速く(大きい値に)して下さい。

ここでは、録音したフレーズサンプルにシーケンスのテンポを合わせる手順を説明しましたが、逆にシーケンスのテンポを変更してもフレーズサンプル自体をシーケンスのテンポに自動的に追従させることの出来る「パッチドフレーズ(PATCHED PHRASE)」機能があります。パッチドフレーズについての詳細は使用説明書の59ページ「フレーズサンプルを分割する」をお読み下さい。



データの保存について

作成したデータはMPC1000の電源を切ると消えてしまいますので、データを保存したい場合には使用説明書の89ページ「セーブ/ロード」または98ページ「コンピューターとの接続」をお読み下さい。

オート・ロード機能をOFFに設定する

MPC1000は今までのMPCシリーズと同じような操作で使えるように設計されていますが、MPC1000では電源を入れると、自動的にプリセット・ファイルをロードして、パッドを叩いてすぐに演奏を開始できる点が今までのMPCとは違います。プリセット音を使わずに自分で作ったプログラムだけでMPC1000を使用したい場合は、オート・ロード機能をオフにすることで、電源を入れた時に自動的にファイルをロードする機能をオフにすることができます。

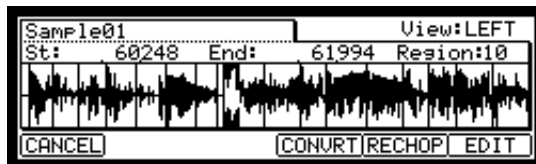
- 1 [MODE]キーを押してから [PAD 2] (LOAD)を押して下さい。
[MODE]キーを押すとLEDが点滅してモードを選択することができます。点滅中に [PAD 2] (LOAD)を押すとLOADページが表示されます。
- 2 LOAD fromフィールドで [WINDOW]キーを押して下さい。
オート・ロード機能を設定するLoad Setupウィンドウが表示されます。
- 3 AutoloadフィールドでOFFを選択してから、[F4] (CLOSE)を押して下さい。
- 4 MPC1000の電源を入れ直して下さい。

その他の便利な機能

MPC1000 version2は、トラックメイキングの際に役立つ 便利な機能を用意してあります。ここではその一部を紹介します。

■ スライスサンプル & パッチド・フレーズ

サンプル内のフレーズを分割する事が出来ます。
各リージョンで区切られたフレーズを別々なサンプルとして登録することが出来る「スライスサンプル(Slice Sample)」と1つのサンプルファイルでありながらもフレーズのテンポを後から自由にコントロールすることが出来る「パッチド・フレーズ(Patched Phrase)」があります。



→ 取り扱い説明書 P.59「フレーズ・サンプルを分割する」

■ シーケンスのテンポに同期可能なエフェクター & LFO

MPC1000は2系統のステレオ・エフェクトと1系統のマスター・エフェクトを使用することができます。これらの中でFLYING PANやDELAYなどの一部のパラメーターはシーケンスのテンポに同期可能です。またプログラムの中のLFOの周期なども同様にシーケンスのテンポに同期可能です。

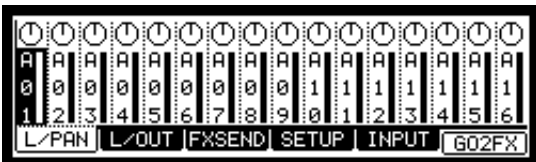


→ 取り扱い説明書 P.83「エフェクト」

→ 取り扱い説明書 P.77「LFOを設定する」

■ ミキサー・オートメーション機能

MPC1000はシーケンスの録音中に変更されたレベルやパン情報(Q-Linkスライダーを操作して変更可能です)をシーケンスに記憶させ、再生時に再現することができます。

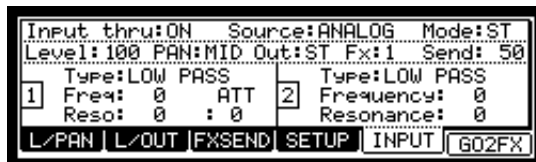


→ 取り扱い説明書 P.80「ミキサー・オートメーション」

■ インプット・スルー(INPUT THRU)

REC INPUT端子 / DIGITAL IN端子に入力してある信号をMPCの再生音とミックスする事が出来ます。

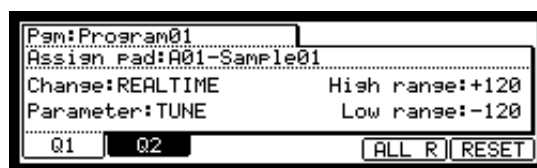
入力した音に対してMPC1000の内蔵エフェクトをかけたり、2基あるフィルターを通すことができる他に、フィルターのカットオフ周波数やレゾナンス、入力ソースのレベルやパンなどを2基あるQ-Linkコントロール・スライダーでリアルタイムにコントロールすることも可能です。



→ 取り扱い説明書 P.81「インプット・スルー機能」

■ Q-Linkリアルタイムコントロール

Q-Linkスライダーを使って、パッドのフィルターやチューンなどの値をコントロールすることができます。Q-Linkで音色をコントロールする方法にはノートオン(NOTE ON)とリアルタイム(REALTIME)の2種類あり、状況によって使い分けることができます。



➡ 取り扱い説明書 P.44「第8章 Q-Linkスライダーを使う」

このクイックマニュアルに記載されている操作は、MPC1000の機能を知る上での最低限の操作です。MPC1000は他にも、音楽を作成していく上で便利な機能を数多く搭載しています。付属の使用説明書をお読みになり、MPC1000の機能や操作方法を十分ご理解いただいた上で、未永くご愛用いただきますようお願い致します。



AKAI professional

